

## 2011 年度 TPOS 訪問記

佐賀整肢学園こども発達医療センター

浦 野 典 子

2010 年 11 月徳島で開催された第 21 回日本小児整形外科学会において最優秀ポスター賞を頂き、TPOS-KPOS-JPOA Exchange Fellowship に選任され、2011 年 4 月 18 日から 7 日間、台湾を訪問させていただきましたので報告いたします。

出発に先立ち日本小児整形外科学会国際委員長の川端秀彦先生に Dr. Shih-Chia, Jason Liu を紹介していただき、期間中のスケジュールを調整していただきました。18~22 日までを台北にて、22~24 日までを TPOS が開催される高雄にて過ごすこととなりました。

4 月 18 日福岡を出発、約 2 時間 30 分のフライトで台湾桃園国際空港に到着しました。TPOS の秘書の Ms. Chen と medical sales の Mr. Peter に出迎えていただき、台北市内で昼食を食べながら、Dr. Shih-Chia, Jason Liu 奥様の合流を待ちました。奥様は「私は周さん」と日本語で自己紹介され、電子辞書を片手に日本語で会話をしてくださり、また滞在中の非常時のために携帯電話も持たせてくださいました。Dr. Shih-Chia, Jason Liu, ご夫妻のお心遣いに変感謝しております。

この日の夕食は Prof. Ken N. Kuo ご夫妻、Dr. Shih-Chia, Jason Liu ご夫妻、Dr. Josh, Chia-Hsieh Chang, Dr. Ting-Ming Wang ご夫妻とご一緒させていただき、欣葉(Shinyeh)にて伝統的な台湾料理をいただきました(写真 1)。翌日からの 4 日間、ここでお会いした先生方がそれぞれ勤務されている Mackay Memorial Hospital, Chang Gung Memorial Hospital, National Taiwan University Hospital の 3 病院を訪問させていただきました。

まず 4 月 19 日の午前中、Dr. Shih-Chia, Jason Liu の勤務されている Mackay Memorial Hospital にて外来を見学させていただきました。Mackay Memorial Hospital は 150 年前にカナダからの宣教師により設立され、台北、淡水など台湾国内に 4 つ病院があるそうです。朝早くから待合室には患者さんが溢れ、診察室のドアには本日の担当医師と担当看護師の名前と、外来患者の予約一覧表が掲示されてありました(写真 2)。診察室に入ると医師と看護師が向かい合って座っており、患者さんの診察から退室までが流れ作業で無駄なく進んでいく様子が見てとれました(写真 3)。症例は小児の O 脚から骨折、また成人の



写真 1. 台北にての夕食。左より Dr. Shih-Chia, Jason Liu ご夫妻, 筆者, Prof. Ken N. Kuo ご夫妻, Dr. Ting-Ming Wang ご夫妻, Dr. Josh, Chia-Hsieh Chang



写真 2. Mackay 病院の外来にて

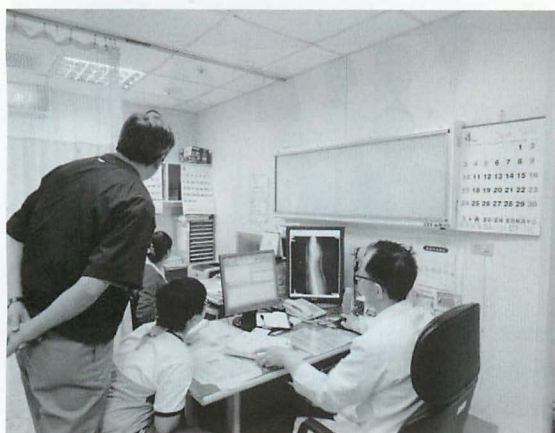


写真 3. Mackay 病院の外来風景



写真 4. Dr. Shih-Chia, Jason Liu ご夫妻, 筆者, Ms. Christine Chiu

OA に至るまで様々で、その中でも外傷の症例が目立ちました。台湾も他のアジア諸国と同じようにバイク事故が際だって多いようです。こちらの病院で、Ms. Christine Chiu という女性の医学生と一緒にになりました(写真4)。彼女はポーランドの医学部に在籍中の医学部7年生で、インターンの最後の1年をこの病院で研修中とのことでした。台湾では医学部入学、国家試験合格が難しいため、ポーランドや中国、イギリスなどの医学部に進学することが多いそうです。もちろん英語は流暢で、台湾の方がいかに国際的な視野を持っているのかに驚かされました。

20日午後と21日は Dr. Josh, Chia-Hsieh Chang が勤務されている、台北から車で30分ほどの林口という市にある Chang Gung Memorial Hospital を見学させていただきました。Chang Gung Memorial Hospital は台湾国内に7病院を有し、その中でも林口は最大で、1,300人ほどの医師が働いているという、台湾国内でも1,2を争う大規模な病院というこ





写真 5. Chang Gung Memorial 病院にて



写真 6. National Taiwan University 病院にて

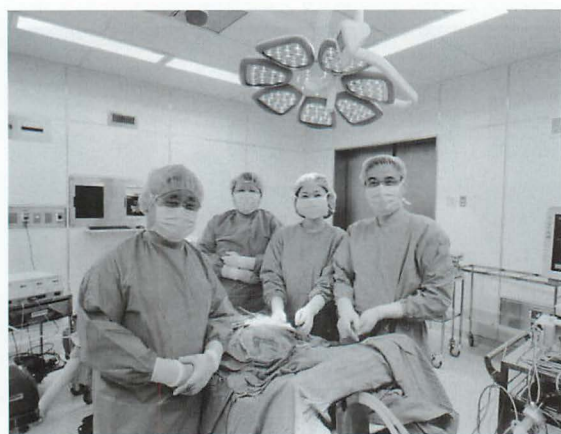


写真 7. NTUH の手術室にて



写真 8. NTUH 外来にて, Prof. Ken N. Kuo を囲んで

とです。

こちらの病院では, Dr. Josh, Chia-Hsieh Chang が執刀される手術を 2 例(1 歳 5 か月の DDH と 1 歳 7 か月の DDH)見学させていただきました(写真 5)。これらの症例は独歩開始後に見付かった未治療の症例で, 観血的整復術と骨盤骨切り術が施行されました。台湾では DDH のスクリーニングが十分でないため, これらの症例のように独歩開始後に発見され, 手術に至る症例が多いそうです。後日開催された TPOS でも議題となっており, 今後は DDH 予防活動の啓蒙とスクリーニングの充実が課題であるようです。

こちらの病院は 70 室の手術室を有し, 脊椎手術を筆頭に(成人)整形外科だけでも同時に 8~9 室を利用するということした。小児整形外科自体は元々小児の骨折から始まったということで, 外傷科と一括りになっており, 成人の整形外科とは全く独立した位置にあるようです。これら多くの症例を効率よくこなすために, 手術室の看護師は特別なトレーニングをうけ, 筋鉤引きから創の縫合までこなすそうです。小児整形外科においても例外

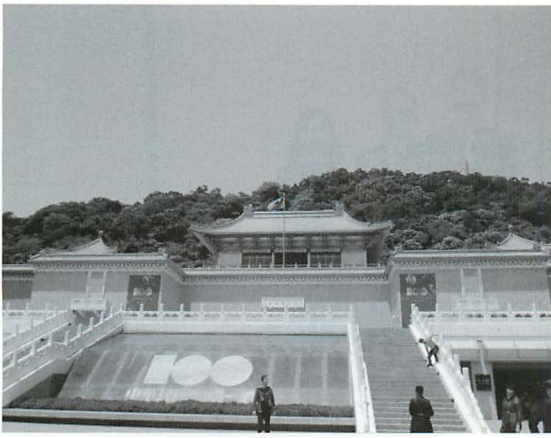


写真 9. 故宮博物院



写真 10. 士林夜市にて、臭豆腐に挑戦



写真 11. TPOS へ参加

でなく普段は執刀医と看護師 1 人で手術を行っているそうですが、今回は私も手洗いをさせていただきました。ガーゼカウントの「イー、アー、サン、スー、……(1, 2, 3, 4, ……」)が印象に残っています。

台北最終日の 22 日は National Taiwan University Hospital (NTUH) を訪問させていただきました(写真 6)。National Taiwan University Hospital は 1895 年に台湾

総督府によって創設され、その後台北帝大付属病院となり、戦後現在の名称となったそうです。歴史を感じさせる建物と、その周囲には新病院も併設され、こちらも大規模な病院でした。

午前中は Dr. Ting-Ming Wang が執刀される 6 歳の男児の両側 Sprengel 変形に対する手術を見学させていただきました。ここでも手洗いをさせていただきました(写真 7)。Prof. Ken N. Kuo からは「Dr. Fujii(藤井敏男先生のことです)はどういう風にしてる？」という質問に慌てながらも、楽しく、興味深く見学させていただきました。午後は Prof. Ken N. Kuo の外来を見学させていただきました(写真 8)。大学病院らしい雰囲気ではありますが、和やかな診察光景でした。脳性麻痺の患者さんが多く、ボトックスから装具、手術などバリエーションに富む治療が行われ、その中でも脳性麻痺の麻痺性側弯に対してはまだまだ手術症例が少なく(年間 10 例ほど)、これからの課題ということでした。

台北では病院見学の間合に、市内観光にも連れて行いただきました。「台湾に来たからには……」と時間調整をしていただき訪れた故宮博物院(写真 9)では中国の歴史の壮大





写真 12. TPOS にて発表, Certificate をいただきました

さを改めて思い知らされました。その他, 中正紀念堂での衛兵交替, 台北最古のお寺である龍山寺, 地上 101 階の高層ビルの台北 101 など, 満喫させていただきました。また, お決まりのマッサージでは癒やされ, 士林夜市では臭豆腐(ちようどうふ: ガイド本によると, 「恐ろしいニオイを放つ, 野菜などを発酵させた汁に漬け込んだ豆腐」)にも挑戦(写真 10)しました。



写真 13. 高雄にての夕食

台北での充実した時間を過ごし, いよいよ TPOS に向け, 22 日の夕方台湾新幹線(Taiwan High Speed Rail)にて高雄へと移動しました。高雄への道中は Dr. Shih-Chia, Jason Liu とご一緒させていただき, 台湾でも最近では女性の高学歴, 少子化が顕著になっている話を伺いました。ちなみに台湾国内の女性整形外科医は 2 人で, それぞれ股関節と手を専門とされているとのことでした。

翌日の 23 日, Chang Gung Memorial Hospital にて開催される TPOS meeting に参加しました(写真 11)。本学会は Taiwan Orthopaedic Association の春季学術集会と平行して開催されています。午前中は成長ホルモンについてと装具についてのシンポジウムでした。午後からは一般演題の発表があり, 私は「Limb salvage treatment for congenital deficiency of the tibia」について発表しました(写真 12)。発表の時には 3 月 11 日に起きた東日本大震災へのお見舞いの言葉とともに紹介していただき, 台湾の方々の日本に対する深い思いを感じました。残念ながらほとんどの発表やディスカッションは中国語で行われていましたが, 私の発表に対しては英語で質問やコメントをいただきました。この日の夜は港町

である高雄ならではの美味しい海鮮料理をいただきました(写真 13)。

最終日の 24 日は Dr. Shih-Chia, Jason Liu と、高校時代の同級生であるという Dr. Jih-Yang Ko に高雄市内を案内していただきました。Dr. Jih-Yang Ko は以前に 2 年程神奈川県に住んでいたことがあるということで、日本語で国立中山大学や英国領事館跡などを案内してくださいました。「台湾の人々は今回の東日本大震災のことを兄弟のことに心配している」と語られ、その言葉に大変感銘を受けました。最後の最後まで台湾の方々の温かさを感じる訪問となりました。

今回の台湾訪問はとても有意義な時間であり、貴重な経験をさせていただき、大変感謝しております。台湾の先生方が日々の忙しい診療に精力的に取り組みながら国際的に視野を広げていく姿は印象的で、私のこれからの励みにしたいと思います。最後にこのような機会を与えてくださいました清水克時理事長、安井夏生前会長、川端秀彦国際委員長を始めとする日本小児整形外科学会の皆様に心より御礼申し上げます。また日頃よりご指導いただき、このような貴重な経験をさせていただきました佐賀整肢学園こども発達医療センター藤井敏男先生、窪田秀明先生始め諸先生方に大変感謝しております。ありがとうございました。